

環境経営レポート

34期

(令和5年11月～令和6年10月)



総合土木建築一式

株式
会社

ハナヤマ

発行日：令和7年 1月31日

目 次

34期 (令和5年11月～令和6年10月)

1	組織の概要	P1
2	認証・登録の対象範囲	P2
3	実施体制	P3
4	環境経営方針	P4
5	環境経営目標	P5
6	環境経営計画	P6
7	環境経営計画に基づき実施した取組内容	P7
8	環境経営目標の実績とその評価	P9
9	環境経営計画の取組結果とその評価	P10
1 0	次年度の環境経営目標及び環境経営計画	P11
1 1	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	P12
1 2	代表者による全体評価と見直し・指示	P12

1. 組織の概要

事業所名	株式会社 ハナヤマ				
代表者名	代表取締役 花山秀夫 代表取締役 花山一雄				
所在地	〒812-0062 (本社事務所) 福岡市東区松島1丁目28番36号				
環境管理責任者	貞包 隆徳 (管理部長)				
担当者氏名	福壽 栞				
連絡先	TEL : 092-409-8906 / FAX : 092-409-8907 E-mail : hana-yama@siren.ocn.ne.jp				
法人設立年月日	平成3年4月1日				
資本金	5,000万円				
事業内容	土木工事業、とび・土工工事業 福岡県知事許可(特-2)第60921号 許可年月日 令和2年10月3日 有効期限 令和7年10月2日 産業廃棄物収集運搬業 許可番号 04000192127 許可年月日 令和3年11月1日 有効期限 令和8年10月31日				
事業規模		単位	32期	33期	34期
	売上高	千円	1,367,761	1,061,726	1,138,422
	従業員数	人	53		
	延床面積	m ²	2,193.48		
事業年度	11月～翌年10月				
所有重機	クレーン機能付き油圧ショベル		0.7BH	4台	
	クレーン機能付き油圧ショベル		0.45BH	1台	
所有車両	ダンプ		10t	18台	
産業廃棄物収集運搬業 事業範囲・許可内容	積替え、保管を含まない。 廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず等(以上3品目については、 自動車等破砕物を除く。)、汚泥(含水率85%以下の無機性汚泥に 限る。)、紙くず、木くず、がれき類以上7品目以下余白				
産業廃棄物収集運搬量	237.2 t				

産業廃棄物収集運搬車 車両一覧

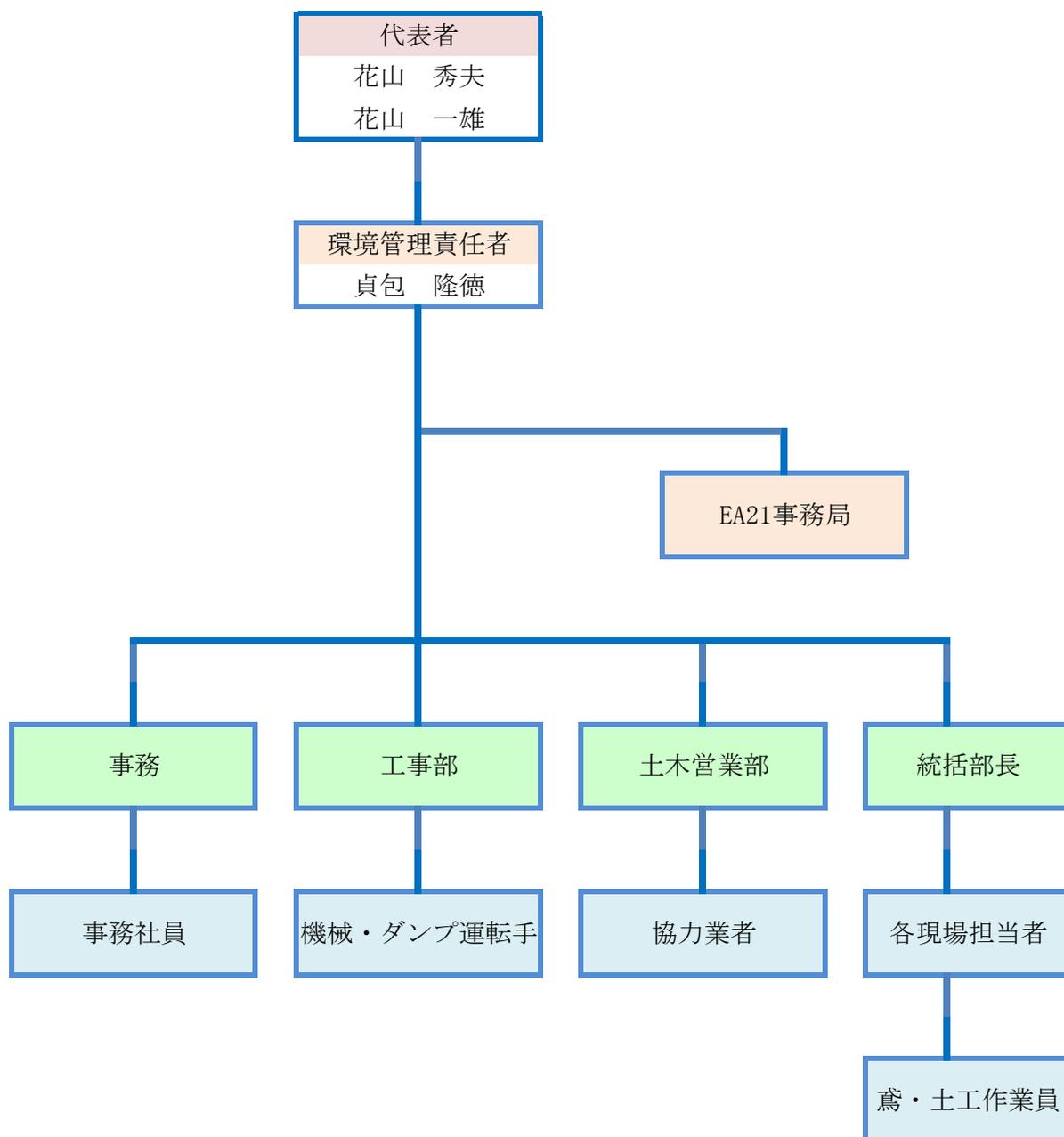
	車体の形状	車両番号	積載量	所有者
1	10 t ダンプ	福岡 130 い 7384	8,600kg	(株)ハナヤマ
2	10 t ダンプ	福岡 130 あ 7385	8,900kg	(株)ハナヤマ
3	10 t ダンプ	福岡 130 い 7386	8,600kg	(株)ハナヤマ
4	10 t ダンプ	福岡 130 あ 7387	8,500kg	(株)ハナヤマ
5	10 t ダンプ	福岡 130 あ 7388	8,500kg	(株)ハナヤマ
6	10 t ダンプ	福岡 130 あ 7389	8,500kg	(株)ハナヤマ
7	10 t ダンプ	福岡 130 あ 7390	8,600kg	(株)ハナヤマ
8	10 t ダンプ	福岡 130 あ 7391	8,500kg	(株)ハナヤマ
9	10 t ダンプ	福岡 130 あ 7392	8,500kg	(株)ハナヤマ
10	10 t ダンプ	福岡 130 あ 7393	9,000kg	(株)ハナヤマ
11	10 t ダンプ	福岡 130 あ 7394	9,000kg	(株)ハナヤマ
12	10 t ダンプ	福岡 100 か 8582	8,700kg	(株)ハナヤマ
13	10 t ダンプ	福岡 100 か 8739	8,600kg	(株)ハナヤマ
14	10 t ダンプ	福岡 104 あ . . . 5	8,900kg	(株)ハナヤマ
15	10 t ダンプ	福岡 135 き . . 55	8,900kg	(株)ハナヤマ
16	10 t ダンプ	福岡 105 き . 555	8,900kg	(株)ハナヤマ
17	10 t ダンプ	福岡 110 こ . . . 1	8,900kg	(株)ハナヤマ
18	10 t ダンプ	福岡 104 を . . . 7	8,900kg	(株)ハナヤマ



2. 認証・登録の対象範囲

事業活動	土木工事業、とび・土工工事業、産業廃棄物収集運搬業
対象事業所	本社

3. 実施体制



4. 環境経営方針

株式会社ハナヤマは、建設業の活動を通して、環境負荷の低減に努め、持続可能な社会の構築に向けて、今できることを社員一丸となり取り組んでいきます。

1. 次の事項を重点項目として取り組みます。

- ① 二酸化炭素排出量の削減
- ② エコドライブの推進
- ③ 水資源使用量の削減
- ④ 廃棄物の削減と3R (Reduce, Reuse, Recycle) の推進
- ⑤ グリーン購入の推進
- ⑥ 省資源・省エネ型施工の推進

2. 環境関連法規を遵守します。

3. 環境経営を継続的に改善します。

4. 環境への取り組みを環境活動レポートとして公表します。

改定日 2023年4月28日
株式会社ハナヤマ
代表取締役 花山 秀夫

5. 環境経営目標

環境経営目標は、基準を過去5年分の平均値とし、目標を設定しています。
34期目標は、基本的に基準年値の3%削減としています。

環境経営目標	対象 場所	単位	基準	目標		
			平均値	32期	33期	34期
			H28. 11 ～R3. 10	R3. 11 ～R4. 10	R4. 11 ～R5. 10	R5. 11 ～R6. 10
			(-)	(1%削減)	(2%削減)	(3%削減)
1 二酸化炭素排出量の削減	全社	kg-CO ₂	1, 139, 153	1, 127, 761	1, 116, 370	1, 104, 978
① 電気使用量の削減	事務所	kWh	78, 312	77, 529	76, 746	75, 963
② ガソリン使用量の削減	事務所	L	16, 469	16, 304	16, 140	15, 975
③ 軽油使用量の削減	事務所	L	4, 820	4, 772	4, 724	4, 675
	現場	L	408, 512	404, 427	400, 342	396, 257
④ 灯油使用量の削減	事務所	L	2, 117	2, 096	2, 075	2, 053
2 エコドライブの推進	現場	km/L	2. 20	2. 22	2. 24	2. 27
① 燃費率の向上						
3 水使用量の削減	事務所	m ³	2, 384	2, 360	2, 336	2, 312
4 廃棄物排出量の削減						
① 一般廃棄物排出量の削減	事務所	kg	185	183	181	179
② 非資源化量の低減	事務所	kg	27	27	26	26
③ 産業廃棄物のリサイクル率の維持	現場	%	90以上	90以上	90以上	90以上
5 グリーン購入の推進	事務所	%	70	71	71	72
① グリーン製品の購入率						
6 省資源・省エネ型施工の推進	現場	%	67	68	68	69
① 省資源・省エネ型施工に係る提案率						

備考

1. 購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.480kg-CO₂/kWh（九州電力 令和2年度調整後排出係数）を使用した。
2. 非資源化量は、シュレッダーで処理された再利用不可の紙量を示す。
3. 化学物質使用量の削減は、現場での使用実績がほとんどないため除外する。

6. 環境経営計画

環境経営目標を達成するために、次のような取組を行いました。

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標		サイト区分	達成手段	
1	電気使用量の削減	事務所	1	エアコン設定温度を決め、実行する
			2	不用な照明の消灯
2	ガソリン使用量の削減	事務所	1	冷房・暖房の使用を最低限に留める
			2	エコドライブの推進
3	軽油使用量の削減	事務所	1	エコドライブを推進する
			2	冷房・暖房の使用を最低限に留める
		現場	3	現場の作業規模に応じた機器を使用する
			4	定期点検を心掛ける
4	灯油使用量の削減	事務所	1	ストーブの使用を最小限に留める

2. エコドライブの推進

取組目標		サイト区分	達成手段	
1	燃費の向上	現場	1	低燃費を心掛けた運転
			2	車両の定期的な点検とメンテナンス

3. 水使用量の削減

取組目標		サイト区分	達成手段	
1	水使用量の削減	事務所	1	日常的に節水活動を推進する
			2	洗車時の節水活動を推進する

4. 廃棄物排出量の削減

取組目標		サイト区分	達成手段	
1	一般廃棄物排出量の削減	事務所	1	両面及び裏紙使用を徹底する
			2	資料等の電子化を推進する
			3	電子メールでの受発信を推進する
2	非資源化量の低減	事務所	1	分別・回収を徹底する
3	産業廃棄物のリサイクル率の維持	現場	1	再資源可能なものはリサイクルを推進する

5. グリーン購入の推進

取組目標		サイト区分	達成手段	
1	グリーン購入の推進	事務所	1	事務用品の購入はエコマーク商品を優先する
			2	事務用品以外でもグリーン購入を推進する

6. 省資源・省エネ型施工の推進

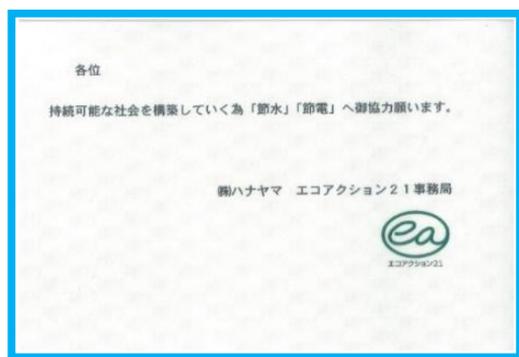
取組目標		サイト区分	達成手段	
1	省資源・省エネ型施工の提案	現場	1	ダンプや重機の低燃費化、再生CRの推進、工期の短縮等の情報や方法を提案する

7. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

1. 二酸化炭素排出量の削減

○節電、節水の呼びかけ

普段から意識して取り組むように社内各所に節水・節電の張り紙を掲載しています。



2. エコドライブの推進

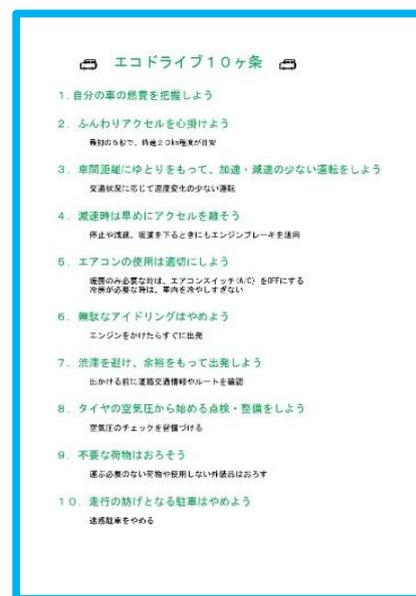
○エコドライブ10ヶ条の周知

ガソリンや軽油の使用量削減のために、エコドライブ10ヶ条を各車両に配布しています。

○燃費の計測

ダンプの運転手は、毎日の運転日報にダンプの点検チェックと1日の走行距離を記入するようにしています。

給油量と走行距離から燃費を毎月管理しています。



3. 廃棄物排出量の削減

○ひとりひとりの意識向上を高めるためにゴミの分別表や張り紙を社内に掲載しています。

○社内で使用する紙類は、出来るだけ裏紙で印刷するように心掛けています。A3の裏紙もA4やB5の大きさに切るようにして無駄がないよう再利用しています。

4. 従業員の資格取得の推進

○資格取得を通じ、個人の知識や判断能力が向上することで、社内全体の技術的なスキルを高めていきたいと考えます。
そのために定期的に、個人にあった様々な情報を提供しております。
今期は、ガス溶接や小型移動式クレーンの技能講習の資格取得いたしました。

5. その他

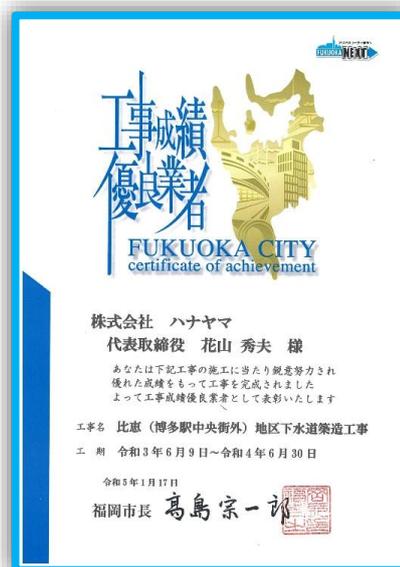
○毎月の安全衛生協力会で従業員には環境活動と呼びかけています。

○社内のホームページに環境経営レポートを掲載しました。

○社内のどなたでも手の取りやすい位置に会社案内とともに環境活動レポートを配置しております。

○郵便物に付いてる切手は、収集して年に1回福岡市社会福祉協議会ボランティアセンターに寄付して、車椅子の購入等に役立てています。

○令和5年1月17日に比恵（博多駅中央街外）地区下水道築造工事の成績優良業者として表彰されました。
今後も優秀な成績をとれるよう社員の教育等も含め、会社一丸となって頑張る所存です。



8. 環境経営目標の実績とその評価

34期の環境経営目標に対して電気、ガソリン、軽油使用量の削減、水使用量の削減が目標未達成でした。

取組項目	単位	過去5年平均	34期（令和5年11月～令和6年10月）			
		基準値	目標値	実績	目標達成率	達成判定
1. 二酸化炭素排出量の削減						
①電気使用量	kWh	78,312	75,963	78,097	2.8%増	×
②ガソリン使用量	L	16,469	15,975	14,403	9.8%減	○
③軽油使用量 (事務所) (現場)	L	4,820	4,675	4,313	7.7%減	○
		408,512	396,257	423,346	6.8%増	×
④灯油使用量 (事務所)	L	2,117	2,053	983	52.1%減	○
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	1,139,153	1,104,978	1,176,707	6.4%増	×
2. エコドライブの推進						
燃費率	km/L	2.20	2.27	2.40	5.7%増	○
3. 水使用量の削減						
水使用量	m ³	2,384	2,312	2,366	2.3%増	×
4. 廃棄物排出量の削減						
一般廃棄物排出量 (可燃ごみ)	kg	185	179	163.3	8.7%減	○
非資源化量	kg	27	26	18.1	30.3%減	○
産業廃棄物リサイクル率	%	90以上	90以上	100.0	±0	○
5. グリーン購入の推進						
グリーン製品購入率	%	70	72	72	±0	○
6. 省資源・省エネ型施工の推進						
省資源・省エネ型施工に係る提案率	%	67	69	71	2.8%増	○

備考 1. 購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.480kg-CO₂/kWh（九州電力 令和2年度調整後排出係数）を使用した。

2. 過去5年分の平均を基準値とし、34期で3%削減を目標とする。

9. 環境経営計画の取組結果とその評価

34期の環境経営計画に対して、取組は概ね実施できていましたが、ガソリン、軽油の削減、水使用量の削減で不十分なところがみられましたので、改善・強化を図っていきます。

取組項目	取組内容	実施状況	取組結果の評価
1. 二酸化炭素排出量の削減			
①電気使用量	1. エアコン設定温度を決め、実行する	×	<ul style="list-style-type: none"> ・電気と軽油の使用量が増加している。 ・節電は、今後も継続して心掛け、重機のメンテナンスをこまめにし低燃費で稼働できるようにする。
	2. 不用な照明の消灯	○	
②ガソリン使用量	1. エコドライブを推進する	○	
	2. 冷暖房の使用を最小限に留める	○	
③軽油使用量	1. エコドライブを推進する	○	
	2. 冷暖房の使用を最小限に留める	×	
	3. 現場の作業規模に応じた機器を使用する	○	
	4. 定期点検を心掛ける	○	
④灯油使用量	1. ストープの使用を最小限に留める	○	
2. エコドライブの推進			
①燃費の向上	1. 低燃費を心掛けた運転	○	<ul style="list-style-type: none"> ・年式が古いダンプは、燃費率が悪いためメンテナンスとエコドライブをより重点的に行うように指導する。
	2. 車両の定期的な点検とメンテナンス	○	
3. 水使用量の削減			
①水使用量	1. 日常的に節水活動を推進する	○	<ul style="list-style-type: none"> ・洗車時の水使用量多いので節水を常に心掛ける。
	2. 洗車時に節水活動を推進する	×	
4. 廃棄物排出量の削減			
①一般廃棄物排出量	1. 両面及び裏紙使用を徹底する	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別・リサイクルは今後も継続して心掛ける。
	2. 資料等の電子化を推進する	○	
	3. 電子メールでの受発信を推進する	○	
②非資源化量の低減	1. 分別・回収を徹底する	○	
③産業廃棄物のリサイクル率の維持	1. 再資源可能なものはリサイクルを推進する	○	今後も継続して行う。
5. グリーン購入の推進			
①グリーン購入の推進	1. コピー用紙等事務用品の購入はエコマーク商品を優先する	○	<ul style="list-style-type: none"> 消耗品など日頃からエコマーク商品を意識して購入するように心掛ける。
	2. 事務商品以外でもグリーン購入を推進する	○	
6. 省資源・省エネ型施工の推進			
①省資源・省エネ型施工の提案	1. ダンプや重機の低燃費化、再生CRの推進、工期の短縮等の情報や方法を提案する	○	今後もゼネコンや下請けとの打ち合わせ時に積極的に提案していく。

10. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

次年度（35期）の環境経営目標は過去5年分の平均値の、1%削減を目標とします。

環境経営計画は、代表者による全体評価と見直しの結果を踏まえて、燃料、水の使用量の削減取組を強化します。

環境経営目標	対象場所	単位	基準値	35期	取組内容（達成手段）
			R1.11 ～R6.10	R6.11 ～R7.10	
			平均値	1%削減	
1 二酸化炭素排出量の削減	全社	kg-CO ₂	1,022,312	1,012,089	
① 電気使用量の削減	事務所	kWh	78,114	77,333	エアコン設定温度を決め、実行する 不用な照明の消灯
② ガソリン使用量の削減	事務所	L	15,850	15,692	エコドライブの教育を推進する 冷房・暖房の使用を最低限に留める
③ 軽油使用量の削減	事務所	L	4,920	4,871	エコドライブを推進する 冷房・暖房の使用を最低限に留める
	現場	L	361,210	357,598	現場の作業規模に応じた機器を使用する 定期点検を心掛ける
④ 灯油使用量の削減	事務所	L	1,736	1,719	ストーブの使用を最小限に留める
2 エコドライブの推進	現場	km/L	2.36	2.38	低燃費を心掛けた運転 車両の定期的な点検とメンテナンス
① 燃費率の向上					
3 水使用量の削減	事務所	m ³	2,458	2,433	日常的に節水活動を推進する 洗車時の節水活動を推進する
4 廃棄物排出量の削減					
① 一般廃棄物排出量の削減	事務所	kg	168	166	両面及び裏紙使用を徹底する
					資料等の電子化を推進する
					電子メールでの受信を推進する
② 非資源化量の低減	事務所	kg	20	20	分別・回収を徹底する
③ 産業廃棄物のリサイクル率の維持	現場	%	90以上	90以上	再資源可能なものはリサイクルを推進する
5 グリーン購入の推進	事務所	%	76	77	事務用品はエコマーク商品を優先購入する
① グリーン製品の購入率					事務用品以外のグリーン購入を推進する
6 省資源・省エネ型施工の推進	現場	%	69	70	ダンプや重機の低燃費化、再生CRの推進、工期の短縮等の情報や方法を提案する
① 省資源・省エネ型施工に係る提案率					

備考

1. 購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.480kg-CO₂/kWh（九州電力 令和2年度調整後排出係数）を使用した。
2. 非資源化量は、シュレッダーで処理された再利用不可の紙量を示す。
3. 化学物質使用量の削減は、現場での使用実績がほとんどないため除外する。

1 1. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社の事業活動及びサービスに適用される環境関連法規等は次のとおりです。

適用される法規等	適用される事項（施設・物質・活動等）
廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃掃法）	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理・排出
	マニフェストの交付・回収・保管の適切処理
特定特殊自動車排ガスの規制等に関する法律（オフロード法）	特定特殊自動車の基準適合表または少数特例表示車使用の遵守
フロン排出抑制法	簡易点検(3ヶ月に1回)を行い、フロン類の漏えいが見つければ修理
グリーン購入法	紙類、文具類の購入等に際し、積極的購入の推進

注) 対象期間に該当しなかった法令は除く

令和7年1月に環境関連法規等の遵守状況を確認・評価した結果、違反はありませんでした。また、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

1 2. 代表者による全体評価と見直し・指示

前回よりも改善されている箇所はありますが、次の3項目は目標未達成もしくは計画取組の実施が不十分でした。

①電気の使用料の削減

夏場と冬場に使用料が増加していたので、来期は熱中症などに配慮する形で冷暖房の使用を改めます。

引き続き普段の生活でも節電の意識を心掛けます。

②重機械の軽油の削減

重機の点検やメンテナンスなどしっかり行い、低燃費で作業できるようにする。

③水使用量の削減

ダンプの洗車時が最も水の使用量が多いので、節水を心掛けます。

天候等を勘案して雨天前には洗車を控えるなど水使用量を削減に努めます。

ひとりひとりの普段の生活で節水を心掛けます。

以上を改善して環境経営目標の達成に努めていきます。